

1 研究主題 「地域を知り、教材化するための実地研修」

2 研究の概要

- (1) 期 日 平成28年8月26日(金)
- (2) 会 場 JAにいがた南蒲加茂支店加茂選果場、梨農園
- (3) 参加者 社会科部員12名(小学校9名、中学校3名)
- (4) 内 容 見学：選果場の施設と出荷、梨の生産の様子
講師：JAにいがた南蒲 園芸特産課 高野純一様
樋口農園 樋口正和様

3 研究の実際

加茂市は信濃川が運んでくる肥沃な土壌があるため、信濃川周辺で果樹栽培が盛んである。果樹の種類は、桃、日本梨、ぶどう、西洋梨であるが、中でも日本梨の生産量が突出しており、特産品であるといえる。

このたびの研修で、日本梨の出荷の様子や生産の様子を丁寧に説明していただいた。

【選果場】

○加茂市の出荷販売実績

品目	数量 (t)	金額 (千円)	面積 (ha)
桃	231	81,541	33
日本梨	1,862	502,954	90
ぶどう	10	7,382	2
西洋梨	161	89,062	28
計	2,264	680,939	153



○出荷の過程について

- ① 荷受：梨農家が選果場に日本梨を運び込むので、コンテナで荷受する。
 - ② 検査：人の手・目で、キズ・病気等のチェックを行う。
 - ③ 判別：光センサーで熟度を識別、形状センサーで変形果の判別をし、情報をチップに記憶する。
 - ④ 分離：記憶された情報により規格別に機械が分離する。
 - ⑤ 箱詰め：製函機、自動印字機、箱詰めロボットで、梨の箱詰めを行う。→出荷へ
- 検査以外はほぼ機械やロボットが行い、ベルトコンベアで流れるように作業が進んでいく。梨は「秀」「優」「良」の3種類にランク付けされ、大きく甘いものだと「秀」になり収益が大きくなる。1玉単位で値段がつけられ、農家に支払われる。この後、北海道、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、新潟県に出荷される。

【梨生産】

○主な生産過程について

- ① 花粉付け：品種の違う花粉を筆で一つ一つめしべの先につける。
 - ② 摘果：なり過ぎた実をとる。
 - ③ せんてい：いらぬ枝を切る。
 - ③ 袋かけ：梨に袋をかける。
 - ④ 収穫
- 県外では一つの果実を集中的に生産しているが、加茂では梨、桃、ぶどう、米など、多角的に生産している。光合成で糖分を蓄えるため、せんていで枝と枝の間を透かすなど、日光がたくさん当たるようにする。台風や洪水など自然災害への対応への決め手がない。収穫の時期を見極めることに、熟練の技が必要となる。

4 成果と課題

加茂市を代表する農産物の一つは日本梨である。地域で素晴らしい日本梨を出荷している選果場と生産している梨農園を見学させていただいたことは、地域にある農産物の素晴らしさや農家の方の工夫や努力について理解を深めるよい機会となった。農業の学習はもろろんのこと、キャリア教育、職業体験などでも取り上げることができ、様々な学年で学習することができる。

今回の研修は、地域素材の教材化を図る上で、有意義な研修となった。